

【テーマ7】 団体名 国立大学法人弘前大学

アクティブラーニングの実施状況をふまえた「総合的な学習の時間の指導法」の開発

調査の概要

◆課題認識

アクティブラーニング（以下、AL）を用いて探究的な学習を導く教師の養成において、ALをどう教えていけばよいだろうか。

◆調査研究の目的

・「総合的な学習の時間の指導法」（以下、「指導法」）におけるALの実施状況を調査し、先行実践における好事例を収集する。
それらを通じて、AIを担う教師の力量形成プロセスを明らかにする。

◆調査研究の方法

◆アンケート調査

・全国の教職課程を有する大学に対する「指導法」におけるアクティブ・ラーニングの実施についてのアンケート調査（回収数 218大学256学部・学科・課程）

◆インタビュー調査

・「指導法」の先行的実践、アクティブ・ラーニングを用いた好事例を調査（8大学9学部）
・中等教育における先進の実践校調査(2校)

取組のポイント・成果

◆調査のポイント

① 「指導法」のアンケート調査

- ・教職課程をもつ全国の大学・学部を対象とした。
- ・ALの実施のみならず、「指導法」の開講形態、条件等を総合的に調査した。

② 先行事例の調査

- ・大規模私学、教員養成系大学を対象に、総合学習、AL等の研究・実践蓄積がある先生方の授業実践を調査した。
- ・中等教育において、先進的な探究的学習を推進する学校の実情を知るとともに、実践的課題、校内研修のあり方について調査した。

③ 調査事例の公表・ハンドブックの作成

- ・全国的な概況を示すと共に、好事例の紹介や指導のポイントをハンドブックとしてまとめた。

◆成果

- ・各大学は置かれた状況の中で、様々な工夫を重ねながら「指導法」の実施、準備をすすめている。
- ・「指導法」の時間数不足や受講人数の多さな等、条件面での課題が示される中、ICT等を活用し、事前・事後の学修やグループ活動等を取り入れたALの実践が見られた。
- ・探究的な学習やALに関しては、大学教育、教職課程全体を視野において考えていく必要がある。
- ・好事例となる授業は、実践事例の検討・単元指導計画を実際にALとして組み込むと共に、総合的な学習を支える理論に基づく省察を行い、「ALの視点による」授業改善の力量形成を図ろうとしている。



今後の課題

◆継続した調査

- ・初等教育における先進事例と教師研修、また、教職大学院における関連科目の取り組みなどは継続して調査を行う必要がある。
- ・「指導法」は本格実施に至っておらず、今後、改善等を含めた取り組みを追跡調査の必要がある。